



くすお会だより

発行日
平成 20 年 1 月 1 日

発行
梶原九州男総合後援会
広報委員会
〒870-0023
大分市長浜町1-2-8
(甲斐ビル2階)
TEL: 097(537)1271
FAX: 097(537)2005

号外 カンボジア特集

去る11月22日に梶原県議、高村総合後援会長とともに12名の視察団で、皆さまのご協力で建設された「コークトローク・ルー・サンキム中学校」の開校式に出席して参りました。入校予定の生徒をはじめ保護者や地域の方々、国會議員、州の教育長や郡長など2千名近くの歓迎の中、子どもたちの笑顔とその輝く瞳を見たときに、皆さまの思いがそのままに現地で受け入れられていることを確信いたしました。



私達を歓迎してくれた中学生の皆さん



寄贈者を代表して挨拶する梶原県議

総合後援会はこれまでポランティア活動の一環として、みなさまからのチャリティ募金等によりカンボジアに井戸を寄贈して来ましたが、今回20周年記念事業では梶原県議のキャッチ・コピー「未来を担う子どもたちのために」と本人の意向を反映し、カンボジアへの学校建設を企画いたしました。



感謝状を受ける高村会長

感謝状と勲章



感謝状と勲章

したところ、くすお会会員のみなさまをはじめ延べ800を超える個人・団体から「祝う会」の参加費も含めて、実に440万円という浄財を寄付いただきました。中には50万円を寄付いただいた方や職場で募金を集めていただいた方、そして九州電力大分支店様からは組合員・管理職の募金額と同額をマッチング・ギフトとして寄付いただきました。

募金をはじめた8月に抱いた「本当に200万円も集まるのか？」との実行委員会の不安も見事に打ち消され、「祝う会」「中学校建設」「視察団の派遣」という一連の記念事業全てを実現することができました。



寄贈した中学校全景

最後に、ご協力いただきました皆さま、視察団に参加いただいた皆さま、そして、中学校建設をコーディネートしていただいたNPO法人「カンボジアの健康及び教育と地域を支援する会(SCHERC)」の皆さまに対し、実行委員会を代表して心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

20周年記念事業実行委員長
藤田 正道

コークトローク・ルー・サンキム 中学校開校式に参列

シエムリアップ市をマイク
ロバスにて出発し、国道6号
線を南下すること約一時間、
国道から未舗装で赤土の凸凹
道に揺られること約三十分、
中学校正門に到着した。

正門から校舎までに至る道
の左側には女子、右側には男
子中学生が、それぞれカンボ
ジア国旗と日の丸の旗を交互
に持ち打ち振る中、シエン・
ナム国会議員に促された梶原
議員と高村会長、そして視察
団が進み、中間地点の横断幕
には、「梶原九州男大分県議
会議員二十周年記念」の文字
が青地に白抜きされていて、
風にはためく下を進み会場に
着席した。



歓迎の横断幕とシアン・ナム国会議員



開校式に参列された村人の皆さん

飾りたてた仮設テントには
地区民約二千人が待ち受けて
おり、着座した三人の僧侶に
よる読経に続き、両国の国歌
が演奏され国旗が掲揚された。
郡長、校長、教育委員長、
SCHEC理事長挨拶に続い
て、梶原議員が挨拶に立ち「終
戦後日本が貧困のどん底にあ
り、食料にも事欠いていた時、
カンボジアから米を送って
いただきました。いつかは恩返
しをしたいとの思いが叶い、
カンボジア発展を担う子供た
ちへの教育の一端にお手伝い
が出来大変嬉しく思います。
学生の皆さんは良く学び地
域の発展、カンボジア王国の
幸せ向上、そして世界平和に
貢献してください。」とお祝
いの挨拶があった。

そして、梶原議員と高村会
長に対し、教育省少年・スポー
ツ長官から感謝状、カンボジ
ア政府からは勲章が贈られた。
持参したサッカーボール、
バレーボール、リコーダーな
どを贈呈した後、教室に入り、
スリムで黒目がくりくりと輝
いている生徒達と歓談した。
校舎の壁には「梶原九州男
と彼の支援者大分県日本・ノ
ベンバー二〇〇七年」と英語
で書かれた看板が掲げられて
いた。

戦後の何もかもが不足の時
代から立ち上り、豊かな時代
を切り開いたわが国と同様に、
学生達が頑張りぬいて、国の
発展に寄与することを祈り、
中学校を後にした。



新設なった教室で挨拶

寄贈井戸の視察

SCHECのメンバーと共
にマイクロバスに分乗して、
国道6号線沿いにある、シエ
ムリアップ州チクレン郡スピ
アントノート地区にある寄贈
井戸視察に向かった。

国道から五十メートルほど
離れた左右と、それから奥に
更に入った所に、二メートル
ほどの支柱に支えられた高床
式の民家が点在している。

民家の庭には、セメントで
長方形に張った端に、手押し
式井戸ポンプが設置され、そ
の背後には寄贈者の氏名を記
載した、立て看板が立っている。

大分県関係寄贈の井戸を探
し出して、民家の方と訪問視
察者が肩を並べ、看板の前で
記念撮影を行った。

今回は、姫野、甲斐、高田、



寄贈した井戸で水あびする子供達

高村、藤田各氏等の寄贈井戸
ポンプが確認された。
透明の水を嬉々として浴び
る子供を見るにつけ、これか
ら井戸の寄贈は続けねばと
誓い合った。

小原田軍士



大分からの参加者全員(自費)で

本誌に記載されている写真、イラスト、記事の無断転載、使用を禁止します。